

それいぼぜんさいし
祖靈墓前祭詞

此の某家の奥津城に静宮の常宮と鎮まり坐せる某命
の靈（を初めて祖先等）の御墓の御前に恐み恐みも白
さく年毎の例の随々に（春の・盆の・秋の）御祭り仕へ奉
ると今日を生日の足日と選び定めて諸々大前に参集
ひて御食つ物捧げ奉らくを聞食し給ひて神随に鎮ま
り坐す奇しき靈は天翔國翔りて此の御祭美しく甘
らに確々に享け給ひて幽冥の隱身ながら現世の頭事を
心安く守給ひて千代遠永に標の石の尽くる事無く
親族家族が仕へ奉る御祭絶える事無く家門高く
子孫の弥次々に守り恵み幸はえ給へと乞祈白事の由
を駒の耳伊弥高に聞こし召せ恐み恐みも白す